

学習内容と到達目標

- ☞ 自分や自分の家族の生い立ち（いつ、どこで生まれ、何をしたのか）について話すことができるようになる。

指導のポイント

ステップ2からは基本的に初中級版と同様、「観察→発見→創造」の流れに沿って学習が進んでいく構成になっている。これは、簡単に言えば、教師に説明してもらって理解するのではなく、モデルを観察することで、学習のポイントを自ら発見し、発見したらその理解が正しいかどうかを確認するために実際に「やってみる」ということで、第8課の場合、「3. LISTENING」から「5. VOCABULARY」までが「観察」と「発見」で、「6. SPEAKING」と「7. WRITING」が「創造」。「2. SPEAKING」は学習者の気づきを促す「前フリ」になっている。

1. INTRODUCTION 第8課からはステップ2に入るので、ステップ1での学習内容が定着しているか十分に確認した上で先に進む。①で山川さんの家族構成を説明できなかつたり、②で質問にすぐに答えられなかった時は、第1課の入念な復習が必要。当時学習者がまだかなり平仮名の読みに苦労していたために、飛ばして先に進んだ [2. LISTENING] のスクリプトなどは、この機会に読ませて復習に使う。

2. SPEAKING 絵を見ながら、山川さんのお母さんの生い立ちを説明させる課題。生い立ちの説明に必要な過去時制の作り方はまだ学習していないため、学習者は「過去の出来事はどうやって表現すればいいのだろう」と戸惑いながら話すことになるが、そのような疑問を抱かせること自体がこの活動の目的の1つなので、問題ない。また、イラストによっては何を意味しているかわからないものもあるが（例えば「5歳」のイラスト）、答えが1つに決まっているわけではないので、学習者に思ったことをそのまま言わせれば、それでOK。

3. LISTENING ①では話の内容に注意を向けさせ、イラストの中の間違いを指摘させる（ほとんどのイラストに間違いがある）。その際、聴き取りを半ば放棄して、最初からスクリプトを見てしまう学習者も少なくないので要注意（PowerPoint を使って、イラストをスクリーンに投射し、教科書は閉じさせるのも一案）。

4. FOCUS ②と④は、集中しないと、ネイティブでも付いていけないので、2度、3度、繰り返し練習するようにする。学習者がまったく付いていけない場合には、以下のような図を板書し、どの部分に集中して聞けばいいかをアドバイスする。

②の場合

～ます	Non-past	○	～ました	Past	○
～ません	Non-past	×	～ませんでした	Past	×

CD のスピードにどうにか付いていけるようになったら、今度は CD の後を追って文をリピートさせる（最初の練習では意味に注意が向けられていないため）。

CD : 父は東京で生まれました。

学習者：父は東京で生まれました。

5. VOCABULARY

①は助詞の確認。ただその際、「大学を卒業する」の「を」は動作の出発点・分岐点を表すなどといった文法説明はせず、「～を卒業する」「～に合格する」のように定式表現として覚えさせるようにする。

6. SPEAKING

①は [2. SPEAKING] で練習したのと同様内容の課題。この課で学習した文法・語彙の理解と定着度を確認する。

7. WRITING

[6. SPEAKING] の②で話したことをそのまま書かせるようにする。

活動例

①世界の有名人クイズ

☞ PowerPoint のアニメーション機能を使い、ヒントが1つずつ現れるようにして、世界の有名人クイズを作る。ヒントは生年月日、出生地、職業などで、授業で学習していない語彙には訳を付けた（以下の例では、時間を表す助詞「に」や動詞「もらう」は未習だが、それ以外の語彙がわかれば意味の理解に影響は与えないので、気にしない）。

例、マリー・キュリー

*1867年にうまれました。

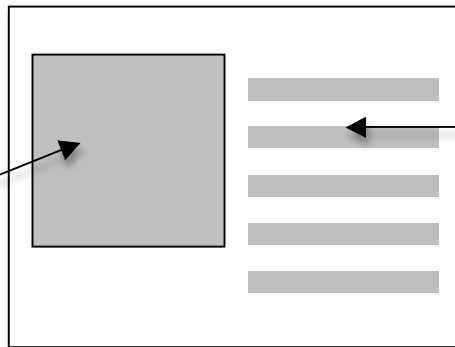
*ポーランド (Poland) でうまれました。

*かがくしゃ (scientist) でした。

*1903年と1911年にノーベルしょう (Nobel Prize) をもらいました。

マリー・キュリー以外に取り上げたのは、①マザーテレサ、②アインシュタイン、③エジソン、④ナイチンゲール、⑤ジョン・レノン、⑥レオナルド・ダ・ヴィンチ、⑦オードリー・ヘップバーンの7人。

画像：アニメーション機能を使い、一番最後に提示されるようにする。



ヒント：アニメーション機能を使い、マウスをクリックすると、1つずつ順番にヒントが提示されるようにする。

②日本の有名人

☞ 活動例①の世界の有名人クイズを真似て、学習者に日本の有名人について調べさせ、発表させる。国際コースでは以下の11人を取り上げた。

①松下幸之助、②野口英世、③手塚治虫、④黒澤明、⑤本田宗一郎、⑥湯川秀樹、⑦北里柴三郎、⑧盛田昭夫、⑨津田梅子、⑩夏目漱石、⑪若田光一（全員知っていた。さすが九大生！）

プチ情報：若田さんは九大卒業生！

若田光一さんは1987年に九州大学工学部航空工学科を卒業、2004年には博士号を取得している。ウィキペディアによると、大学在学中に読売テレビの鳥人間コンテストに出場したことがあるそうで、奥様も九大の留学生だったとのこと。ちなみに、『世界の中心で愛を叫ぶ』の片山恭一さんも九大卒業生。

授業で使えるリソース

☞ 学生の多くが中国語圏出身の場合、「科学者」などの語彙は漢字表記すればよいが、国の名前などは英語で標記するより学習者の母語である中国語で標記した方がやはりわかりやすい。だが、辞書で訳語を調べることはできても、Word や PowerPoint に入力することができない。そんな時便利なのが Yahoo! Japan の翻訳機能。左側のボックスに日本語で「ポーランド」と入力すれば、ボタン1つで「波兰」（中国語）や「폴란드」（韓国語）などと訳語が表示されるので、これをコピー・ペーストすればよい。